

稲作管理特報

令和3年4月30日

入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

育苗管理は換気を徹底し、活力の高い苗に仕上げましょう。
品質の高い「みな穂産米」生産のため、5月10日以降の田植えと適正な植付本数・植付深さの確保、70株/坪植え及び浅水管理で、初期分げつの発生を促しましょう。

1 4月下旬以降の育苗管理 ~換気を徹底する~

- ・ハウス内の温度が25℃以下となるよう換気しましょう。田植え1週間前頃を目安に、夜間もハウスを開け、外気に慣らしてください。ただし、気温が5℃以下になると予想される場合は閉めてください。
- ・かん水は、毎朝1回たっぷりを行います。フェーン時など床土が白く乾き、葉がまき始めたら、すみやかにかん水をしましょう。
- ・「ばか苗」は必ず抜き取り、抜き取った苗は放置せずに埋設しましょう。

2 代かき ~除草剤の効果をも高める~

- ・代かきは田植えの2~4日前に行いましょう。
- ・代かきは浅水で、稲わらを埋没させるとともに、ほ場の均平に努めましょう。
- ・代かき後の濁り水は、ほ場外に流さないでください。また畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物は除去しましょう。

※代かき時に、水田から基肥一発肥料などの被覆殻が流出しないように注意する

3 苗箱施薬剤の散布 ~苗箱施薬剤は、除草剤と間違えないように散布する~

- ・田植え3日前~田植え当日に、ルーチンブライト箱粒剤(1箱当たり50gを厳守)を均一に散布してください。
- ・散布後は苗に付いた薬剤を払い落とし、軽く水をかけましょう。
- ・育苗後に育苗ハウス内で野菜を栽培する場合、ハウス内での散布は行わないでください。

4 基肥 ~適正な基肥量を施用する~

・コシヒカリの場合

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)
一発体系	Jコートコシヒカリ1号または2号	38 (側条)
分施肥体系	基肥206	30 (側条)

※春に堆肥を1t/10a以上散布したほ場は、基肥の施用量を1~2割減肥。

- ・田植前には施肥量調節ダイヤル値を確認し、一定距離を走って落下量を確認してからご使用ください。また、ほ場毎に肥料の施用量を必ず確認してください。

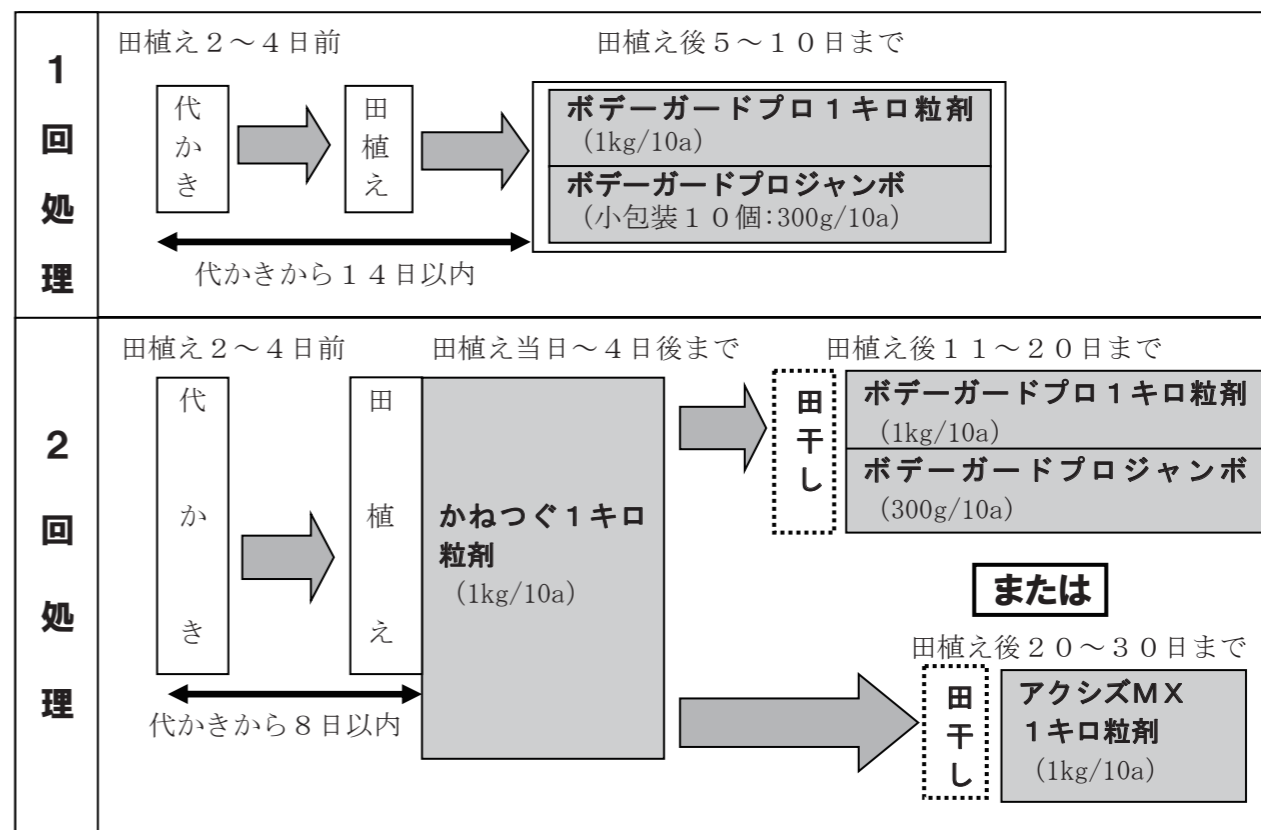
70株植えと浅水管理で初期分げつを確保し、「穂数型稲」への誘導を!

5 田植え ~適正な植付けと水管理で、分げつの確保に努める~

- ・栽植株数は70株/坪とし、初期分げつと穂数の確保に努めましょう。
- ・植付深さは3cm、植付本数は3~4本/株となるように調整してください。
- ・田植え直後は苗が水没しない程度の深水とし、活着後は水深2~3cm程度の浅水管理に切り替え、分げつの発生を促しましょう。
- ・入水は朝または夕方に行い、日中は水を止めて田水温の上昇に努めましょう。

6 除草剤の散布 ~使用方法を厳守し、適期に散布する~

- ・散布前に5cm程度入水し、5日間は止め水のうえ、湛水状態を保つようにしてください。
- ・水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと入水し、田面の露出を避けてください。
- ・散布後7日間は落水やかけ流しは行わないでください。
- ・2回処理の場合、除草剤散布直前に軽い田干しを1~2日程度行うことで、藻への効果を高めるとともに、有害なガスの発生を抑制してください。



<かねつぐ1キロ粒剤を田植え同時処理する場合は、次のことに注意してください>

- ① 漏水の多いほ場では使用しないでください。
- ② 軟弱苗の場合、田植え同時処理を控えてください。
- ③ 極端な浅植えにしないでください。
- ④ 田植え後は、直ちに入水してください。

農薬は使用基準を正しく守り、使用後は栽培履歴簿に必ず記帳しましょう。